

長崎町家



まちぶらプロジェクト 2021年12月発行

長崎町家の歴史も探る

幕末明治の古写真でも確認できますが、長崎は町家の建物がびっしりと建ち並び、城下町とも異なる長崎特有の港町の形をなしていました。昭和の初め頃まで、市街地はほとんど町家や商家で占められ、周囲の山裾に寺社群が並んでいました。

大正初期の「日本都市風景（椽内吉胤著）」には長崎の町について次のように記してあります。「私はこれまで諸国の町を歩いて見てきたが、この長崎の町のように、こんなにはしてもなく続いている同じような構造の古風な格子の家の驚くべき集団を逐々見かけたことがない。（中略）「町家の都市」—それは長崎の別名であるといっても、ちっとも過言ではないであろう。」

このように、どこまで行っても両側町で構成されている町は、他都市にないものだったのです。



町家が建ち並ぶ風景（明治中期以降）。諏訪町の通りを寺町（長照寺）方向に向かって撮影（長崎大学附属図書館蔵）



石橋をわたれば 和風文化も色濃く残す 中島川・寺町界隈

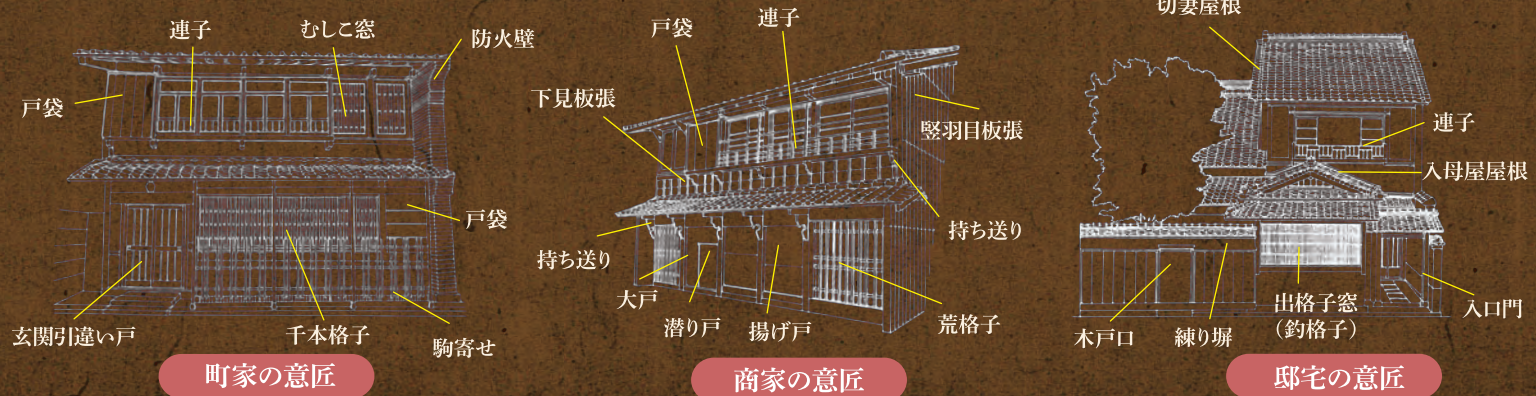
多くの先人たちが、そして長崎の地を訪れた多くの偉人たちが踏みしめ渡った石橋群。その石橋とともに歴史を刻んできた町家の佇まいが、中島川・寺町界隈には今も残っています。

人々が往来する道に隣接した町家の造りでは、家屋の中をかくし、時には外との触れ合いの双方を可能にする様々な格子など、そこには人と人、人と町を継ぐ趣のある表情が伺われます。

町家めぐり

町家の種類と意匠

町家の種類は、町家、商家、邸宅、料亭、その他（長屋・旅館・蔵）に分けられ、伝統的工法による意匠が見られます。



町家文化

長崎の一般的な町家は、格子や連子（れんじ）、裏の家へ続く小路（しゅうじ）などがある和風建築物。間口が狭く奥に長いため、敷地の中に庭を作って光や風通しを良くしていました。

- 祭り**

くち前の庭見せでは、格子戸を外し、部屋に飾り物を並べ、中庭まで見せていました。くち当日には庭先回りが各町の通りで催されています。
- 芸能・工芸・和の美**

町家、商家の中には、銀細工、酒屋、刺繍など専門店があり、伝統的な職種であったり、町名ゆかりの店であったりしました。業種もさることながら、町家空間の中で営まれているものは、部屋のしつらいも関連して、衝立、床、書院、欄間など和の美が存続しています。
- 地域コミュニティ**

通りに面する両側が同じ町を構成し、安心できる場をつくり、地域のまとまりをよくしています。表通りに庇が並ぶ通りの景観は長崎独特のもので、こうした軒先のスペースは挨拶、防災、祭礼などに大切なものでした。

長崎町家

長崎の町家は、海外交流の窓口として繁栄した独自の歴史の中で、長く受け継がれてきた住民の暮らしや文化を支え、祭り・行事の伝統芸能などの都市文化を花開かせました。

町家は、長い時間をかけて町民と大工棟梁らの協働作業で形成され、蓄積された賜物といえます。昔のように連続した町家の並びが少なくなっているものの、旧市街地には今も約300棟余りの町家が残っています。そんな町家をピックアップして巡っていきましょう。

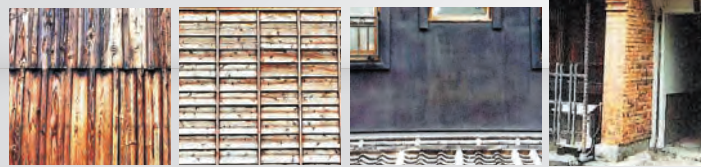


町家の外観意匠

屋根 桧瓦葺きで、切妻、入母屋の屋根が一般的です。通りの両側にある主屋が連続して並ぶ切妻平入形式の屋根が一体感のある街並みを形成しています。

外壁・うだつ

壁仕上としては、大工仕上の羽目板張りや下見板張り、左官仕上のしっくい塗りが一般的。防火対策のために、2階はしっくい塗仕上としたり、隣家との境にレンガ造の防火壁が設置されていました。



庇・持ち送り・屋垂れ

庇の出方には浅いもの、深いもの、真っ直ぐのもの、反ったものがあります。庇の出が深く、古い町家や商家には持ち送りが付いています。また軒先にある垂木の鼻隠しに雨よけとして尾垂れが取り付けられ、おくんちなどの祭時に幔幕を張るのにも使われます。



連子・手すり・戸袋

建物正面の2階部分に肘掛け窓を取り付けて、手すりを持ち出し、地板に腰掛けて表通りの様子を眺めたり涼んだりできます。1階だけでなく2階部分も幅広く開放的な造りとなっているのが長崎の伝統的住宅の特徴の一つで、現在も手すり子を連子と呼んで親しまれ、凝った意匠の手すりや戸袋もあります。



格子戸・駒寄せ

格子窓は直接覗かれやすい所などに、内部生活に都合よく様々な形で設置されています。柱の外に張り出したものを出格子、柱位置と同じものを平格子といいます。格子戸の形態には、千本格子、切子格子、穴あき格子、組子格子、荒格子などがあります。格子戸の前には駒寄せを設置して、格子に直接触れないようにしていました。



掲げ戸・大戸

窓・開口部には常備の格子戸・引違い戸に加えて、昼夜の生活、店構えなどに対応して大きく開閉できる建具がありました。掲げ戸は商家や町家に用いられ、開口部鴨居（かもし）上に板戸を収納するので、間口を大きく開放できるようになっています。大戸は土間の出入口に用いられ、内開き戸、片引き戸のほか、吊り上げる形式もありました。



特殊な窓・開口部

和風の窓には、窓の位置を変えたり、外観を飾るために特殊な窓や開口部を設けることがあります。種類としては掃き出し窓、天窓、むしこ窓、無双窓、下地窓などがあります。内側に障子戸、ガラス戸などを取り付けることもあります。商家では防火のために2階部分をしっくい塗として、鉄製開き扉を設けたものもあります。



門・堀・小窓

邸宅タイプの住宅の外構には入口門、練り堀、木戸口があります。練り堀の天端は瓦葺きで、壁仕上げはしっくい塗、板張、タイル張り、乱石積みなどがあります。入口門は日常的に使用されますが、旧市街では庭見せの祭事の時だけ参観者のために木戸口が開けられていました。小窓も庭見せのために取り付けられたものです。



小路（しゅうじ）

間口が狭く、奥行きが長い独特の敷地にある町家は、表通りに面して表の家があり、奥に中庭、さらに奥に入ると裏の家があります。小路は、表から裏の家へ続く通路としての役割があるのですが、梯子や祭用具などの長尺物の生活用具の設置場所としても使われていました。



中島川・寺町地区まちなみ整備助成制度

町家等を活かしたまちなみづくりを進めるために、既存の町家の維持、保全及び復元のための工事や、町家以外の建物で町家風の外観を形成する工事の経費の一部について助成を行っています。対象となる範囲は裏面のマップを参照してください。詳しくは、下記の問合せ先にご連絡ください。

※助成制度を活用した事例
上の写真の が助成制度を活用した建物です

助成制度に関するお問い合わせ先

- 連絡先 長崎市役所 まちなか事業推進室
- 電話番号 095-829-1178
- FAX番号 095-829-1229
- Eメール machinaka@city.nagasaki.lg.jp

長崎市町家を活かしたまちなみづくり

CLICK

検索